

この号の内容

- ① 岡山県臨床研修連絡協議会の紹介
- ② 「かかりつけ医」って何？
- ③ 先輩からのメッセージ
- ④ 将来の為に今、考えよう！



岡山県医師会

URL

<http://www.okayama.med.or.jp/index.html>

E-mail

oma@po.okayama.med.or.jp

岡山県臨床研修連絡協議会の紹介

岡山県医師会副会長／岡山県地域医療支援センター長／
NPO 岡山医師研修支援機構理事長 糸島達也

2004年に新医師臨床研修制度が始まり、岡山大学とその関連施設（中四国と兵庫県）は協同で「NPO岡山医師研修支援機構」を立ち上げました。同機構では新しい医学部卒業生の初期臨床研修と後期臨床研修のために、マッチングプラザ岡山やセミナーを開催して努力してきました。当初は後期研修プログラムの充実には力を入れていましたが、次第に初期臨床研修の医学生向けのマッチングプラザに力点が移っていきました。

一方、岡山県下を中心とした中小病院の院長、理事長、岡山大学教授、行政、マスコミ、弁護士などを含む地域医療部会が発展し、岡山大学の人材育成講座との協力で、学生や研修医の実習も積極的に受け入れるようになってきました。

そこで、臨床研修基幹病院の連携と協調が必要だと感じるようになり、2015年5月から岡山県地域医療支援センターと岡山県が主体となり、岡山県臨床研修連絡協議会を立ち上げ、レジナビ大阪に6病院の協同で岡山県ブースとして参加しました。その後も、協同で岡山県に優秀な研修医が集まってくるように努力をしようと言うことで2回目の会を11月6日に行いました。メンバーは16の基幹型研修病院、岡山県病院協会、岡山県医師会、NPO岡山医師研修支援機構、岡山県保健福祉部医療推進課、岡山県地域医療支援センターの関係者一同です。

2016年就職のマッチ数は194名（2015年159名）と前年比で35名増加しました。昨年マッチ数の低かった病院が努力された成果が表れました。お互いが努力し、試行錯誤した内容を持ち寄り、更に全体の臨床研修のレベルが上がるようにして行きます。

2015年9月4日に行った「初期臨床研修の充実のための現役研修医からの提案」も報告され、これらを参考にして岡山県全体の研修指導力を上げるように話し合いました。また研修2年目全員に対する初期臨床研修の満足度調査を2016年2月に行う予定です。今後連携して取り組む内容についてホームページ、レジナビ、マッチングプラザ岡山への要望などを検討し、Welcome 研修医の会は2016年4月7日に実施予定です。

さらに来年から新しい専門医制度が導入されると、各研修医が200症例を集める必要があり、弱い部門はお互いに連携をする必要が出てきます。大学などの基幹病院との連携が重視されること、一方で地域医療を支える視点も忘れてはならないなど、専門医制度が後期研修、初期研修に与える影響を話し合いました。



「かかりつけ医」って何？

岡山県医師会庶務担当理事 松山正春

《日本型「かかりつけ医」》

私は、学生時代に友人からこんな話を聞いた。この友人のお兄様夫婦が、県庁所在地の街はずれで開業されていた。私の友人は、夏休み（お盆）と冬休み（暮れ）になると、お兄様に依頼されて他家をまわって溜まった医療費の集金を行っていた。農家が多い地区であったのか、なかなか現金での集金はできず、米、野菜、卵を自転車いっぱい積んで帰った。それでもお兄様は平然と集まった農作物を整理されていたという。これが田んぼの中で開業する医師の日常であったのだろう。地域の中で、患者だけでなく患者の家族及びその縁戚に繋がる者も皆が先生の患者なのだ。先生は家族のことは、健康状態、家族構成、縁戚関係、経済状態等もみな承知しておられるからこそ、米での支払いもOKなのである。当時の開業医は、まさに「かかりつけ医」であったが、プライマリーケアについて系統的な教育を受けたわけではない。一人ひとりが各分野の専門医（医学博士）でもあった。内科医であれ外科医であれ、出張先の病院等では総合診療医として教育を受けた。指導は地域医療を担当する先輩医師であり、大学から来られる医師であった。そして、大学に帰ればティーテールアルバイトと称する専門教育を受けた立派な専門医である。

「かかりつけ医」という名称は、最近では行政用語にもなっているが、1992年、日本医師会会長に就任した村瀬敏郎先生が使い始めた言葉と言われている。同義語に「家庭医」、「総合医」、「総合診療医」そして専門医制度での「総合診療専門医」等があるが、30年以上にわたって使用されてきた「かかりつけ医」が、国民皆保険制度を有する日本の医療にはぴったり当てはまる。厚生省においても、「かかりつけ医」機能の評価等の文言がみられ、医療の世界では欠かせない言葉になっている。

《かかりつけ医の意義・職務》

最近、「機能分化」や「連携」という言葉をよく聞くが、これは医療供給者側から見た言葉であり、患者の側からみる視点も重要である。医療は患者によって個性があり定型化されたものは一つとしてない。インフォームド・コンセントを文章にしても伝わりにくい内容が含まれることも少なくない。重要なことは、適切な医療を行うためには、患者の性格・病歴・生活歴・家族との関係性を含めた理解を必要とするが、こうした全人的な理解は医師と患者のパーソナルな信頼関係に基づくものであり、転院はこのような関係を切断することになる。転院のたびに最初から主治医との関係を築くことになる精神的負担が大きい。それではどうすればよいのか。転院調整等にあたり医療機関あるいは医師等が連携を密にすることによって「切れ目のない」医療の実現を図らなければならない。しかし、これのみでインターフェース・ロスを解消できない。病院や専門医（勤務医）の負荷が過重になるという観点がある。丁寧な説明を行うには時間がかかるうえ、患者の病歴・性格・生活歴・家庭環境を把握することは容易ではない。一方、患者の側も医師に十分話を聞いてもらえないという不満が鬱積している。国民の医師に対する要求は高まることはあっても低下することはない。したがって、患者やその家族の事情を熟知している「かかりつけ医」が患者のエージェント（代理人）として医療機関の間を「繋ぐ」ことによって補完することができる。

医療制度は、各国の歴史・文化・経済等を反映して固有の形態をとるが、特に国によって相違が顕著に表れるのは、ファーストコンタクトの部分である。わが国ではこの役を「かかりつけ医」が負ってきた。そして、「かかりつけ医」の役割・機能は、患者の病態に応じ適切な病院や専門医へ紹介することだけにあるのではなく、頻度の高い一般

の病気の診療、疾病予防や疾病管理、看護・介護・福祉のコーディネーター等である。

特に、高齢者にとって「かかりつけ医」の有用性は高い。高齢者は複数の疾患を抱えることが多いが、その受診行動をみると、高血圧は循環器内科、糖尿病は糖尿病専門医、高脂血症は内分泌代謝の専門医、眼科は眼科医といったように専門医を決め受診している場合が少なくない。こうした受診行動は医療費の増加を招くだけでなく、総合的な疾病の管理が行われないため患者にとって最善の医療を行っていることにならない。

在宅医療を展開するには、24時間・365日対応するマインドと的確な認知症の診断や適切な緩和ケア等のスキルを持った在宅医が不可欠であるが、「かかりつけ医」と在宅医は理念的にも機能の面でも重なり合う部分も大きい。

《日本医師会の考え》

超高齢社会では、高齢者の日常生活の不具合も含む早期発見、早期治療、長期にわたる慢性期かつ複数疾患の医学管理の必要性はさらに高まり、身近で頼りになる「かかりつけ医」の役割はますます重要になる。また、「かかりつけ医」には、国民の疾病予防や健康管理を支える役割も担っている。

国が推進している地域包括ケアシステムにおいても、「かかりつけ医」がその中心的な役割を担う仕組みの構築が重要である。日本医師会は、こうした背景を踏まえて、患者・国民の健康に、生涯にわたって幅広く関わっていくことを目指して、「かかりつけ医」の養成、「かかりつけ医機能」の充実に努める。

また、「かかりつけ医」のほか、「家庭医」「総合医」「総合診療医」等の名称があるが、今後も引き続き議論し、国民がどのように受け止めているかを見極めつつ、あらためて整理するとしている。

「かかりつけ医」の定義は、なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合力を有する医師としている。

「かかりつけ医機能」は下記の機能を有する。

1. 「かかりつけ医」は、日常行う診療においては、患者の背景を把握し、適切な診療及び保健指導を行い、自己の専門性を超えて診療や指導を行えない場合には、地域の医師、医療機関等と協力し解決策を提供する。
2. 「かかりつけ医」は、自己の診療時間外も患者にとって最善の医療が継続されるよう、地域の医師、医療機関と必要な情報を共有し、お互いに協力して休日や夜間も患者に対応できる体制を構築する。
3. 「かかりつけ医」は、日常行う診療のほかに、地域住民との信頼関係を構築し、健康相談、検診・がん検診、母子保健、学校保健、産業保健、地域保健等の地域における医療を取り巻く社会的活動、行政活動に積極的に参加するとともに保健・介護・福祉関係者との連携を行う。また、地域の高齢者が少しでも長生きできるように在宅医療を推進する。

「かかりつけ医」は、日本の風土、文化として我が国の医療を支えてきた。厚生労働省の施策は時々刻々と変化するが、「かかりつけ医」と患者の信頼関係は依然として保たれている。しかし、患者の高齢化は進んでおり、今後は在宅医療がますます重要となってくる。「かかりつけ医」がより主体的に在宅医療に取り組んでいく必要がある。

また、希望する患者が安心して在宅医療を受けることができるような環境整備も重要である。そして、在宅医療は、患者や家族の選択を尊重するものでなければならない。他職種との連携による環境整備、家族の選択の支援についても「かかりつけ医」が果たす役割は大きい。

参考文献「日本の医療」島崎謙治（著）

先輩からのメッセージ

岡山済生会総合病院 原田亮一先生

こんにちは。現在、岡山済生会総合病院に勤務している原田亮一と申します。同病院で初期研修を行い、そのまま後期研修医1年目として日々勤務に励んでいます。

研修医時代を振り返ってみると、冷や汗が出そうな思いをして慌てふためいていたことや、「研修医なんかに見てもらいたくない」と救急外来で患者さんに怒鳴られた事もあります。また、治療の効なく患者さんが亡くなってしまい医師としての無力さを感じた事もありますが、亡くなった患者さんのご家族から後日お礼のお手紙を頂いた時は医者として冥利につきます思いでした。

上級医の先生から言われて印象に残っている2つの言葉を紹介したいと思います。

一つ目は「初期研修医という職業は存在しない」です。就職して初めて「Dr原田より〇〇を許可いただく」とカルテ記載されてから、医師としての責任

を実感して仕事をしていたつもりでした。この言葉を言われた時には気にしていませんでしたが、3年目になって「研修医」という言葉を使えなくなった時に、「研修医」という言葉を盾にどれだけ甘えて、責任から逃れていたのかという事に気づきました。2つ目は、「足を使って仕事をしろ」です。文字通りの意味ではなく「謙虚に労を惜しむな」と理解しています。担当医になったとき、病状が変化した時など素早い行動をしていますか？患者さんの状態は看護師などの情報で推測出来る事が多いと思いますが、「会いに行ける医師」でなく「会いに行く医師」である事が重要だという事を再確認させられました。

初期研修は全てが新鮮で学ぶことが数多くあります。技術だけの修得にかまけるのではなく、紹介状の書き方・特に患者さんへのICの上達などおろそかにしないようにしましょう。技術以上に大事なスキルです。要領のいい同期もいて焦ることや悩む事もあるかもしれません。ゆっくり自分のペースで確実に歩いて行ってください。いろんなセミナー・他病院での研修等にも積極的に参加してください。

お互い長い医師人生の一步。一緒に切磋琢磨して行きましょう。

郡市等医師会、県医師会、日本医師会の 研修医会員の年会費が無料になりました!!

岡山県医師会は、医師としての高い倫理観と使命感を持ち、医療活動を通じて県民の健康と福祉に貢献するとともに、医学の向上に質し、人間の尊厳が大切にされる社会を目指しています。若い皆様が仲間として活動して下さることを心より望んでいます。

！ここが Point

日本医師会のA会員になれば、安心して診療活動をするための日本医師会医師賠償責任保険に加入することが可能になります。また、勤務先が変わることの多い医師は公的年金だけでは将来に不安が残ります。そんな医師のための私的年金、日本医師会医師年金に加入することも可能です。

勤務先が変わっても安心したサポートを受けられますか？
勤務先 任せになっていませんか？

将来の為に今、考えよう! ~Part 1~
あなたの保険、大丈夫？
— 日本医師会 医師賠償責任保険 —
Consider your future!

医師会のサポートを受けられる
日本医師会会員のための賠償責任保険です

- 日本A会員は自動的に賠償保険。
- 損害賠償請求発生時に日本A会員であれば、以前の職場の事業にも対応可能。
- 事故発生時より医師会のサポートを受けられる。
- 日本医師会、県医師会が協力して紛争を解決。
- 迅速、適正な解決ができる。

お問い合わせ 086-272-3225 [岡山県医師会]

今後の生活に不安はないよう考えていますか？
勤務先 任せになっていませんか？

将来の為に今、考えよう! ~Part 2~
あなたの年金、大丈夫？
— 日本医師会 医師年金 —
Consider your future!

事務手数料が安く自由度の高い
日本医師会会員のための私的年金です

- 厚生年金補填等の特定保険制度である日本医師会が運営する積立型私的年金。
- 月額12,000円から申請での増額も可能。
- 定額コースは定額給付時に優遇。
- 満64歳から月率満まで加入可能。
- 年金の受取開始年齢も75歳まで繰上可能。
- 所属医師会、会員種別が変わっても継続可能。

お問い合わせ 086-272-3225 [岡山県医師会]

- A②C (医師法に基づく研修医)
年会費 ~~6,000円~~ → 0円!!
医師賠償責任保険 33,000円
- 基本年金保険料12,000円を加入年齢時から毎月払い込んだときの年金月額
例：加入年齢が満25歳の場合
…約31,850円

入会申し込みは岡山県医師会へ
お問い合わせ下さい。

第20回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

メディカルカフェ in かわさき
「女性医師を応援します！」パート4

平成27年11月19日(木) 無事終了いたしました。

1) 話題提供 (30分)

「結婚しながらキャリアを継続するには？」

旭川医科大学皮膚科学教授 山本 明美 先生

2) 自由懇談 (50分・・・4-5人掛けのテーブルごとに)



第21回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

第12回岡山ビジョンナ会講演会

●日時：平成28年1月9日(土) 16:45～19:00

●場所：ホテルグランヴィア岡山 4階 フェニックス

●プログラム：

■講演1

「女性・地域が輝く社会に向けて(仮題)」

倉敷市長 伊東 香織 先生

■講演2

「基礎から臨床へ、患者さんに届ける角膜内皮の最新治療」

同志社大学生命医科学部医工学科 教授

京都府立医科大学 客員教授

小泉 範子 先生

第22回 Doctor's Career Café in OKAYAMA

「第10回 D+MUSCAT」

●日時：平成28年2月6日(土) 17:00～

●場所：ピュアリティまきび

●プログラム：

■Part 1

特別講演1 「だれも知らないオシモの世界」

みやびウロギネクリニック 院長 井上 雅 先生

特別講演2 「婦人科でみかける皮膚疾患」

しな子レディースクリニック 院長 荒木 詞奈子 先生

■Part 2

「D+Muscat Discussion」 質疑応答

岡山県医師会による マタニティ白衣レンタルサービス事業のご案内

なでしこプロジェクトのマタニティ白衣は岡山県医師会女性医師支援事業でレンタルできます。ご希望の方は岡山県医師会までご連絡ください。

(TEL: 086-272-3225)

le coq sportif  MATERNITY DOCTOR COAT

キャリア支援

Dr.なでしこ
プロジェクト

妊娠中の医療者の方のための

ドクターコート

医療分野の中で生き生き活躍する女性をイメージして、フランスのスポーツブランド「ルコックスポルティフ メディカルウェア」では、妊娠初期から臨月まで対応できるマタニティ白衣を岡山県医師会にご協力いただきながら開発しました。日本中に花咲くなでしこドクターのご活躍を応援いたします。



編集後記

例年より少し遅れましたが、Good Doctor Vol.14号をお届けいたします。秋の号は地域医療がテーマです。研修医の皆様は岡山で臨床研修をしていただこうと奮闘している岡山臨床研修連絡協議会を紹介いたします。魅力的な研修システムとはどのようなものか？研修指定病院の代表が集まって知恵を振り絞っています。

ミニレクチャーは松山理事の『「かかりつけ医」って何？』です。「かかりつけ医」をご存知でしょうか？皆さんのおじいさん、おばあさんの時代

の開業医さんのイメージが一番近いでしょう。在宅医療が推進される現代、「かかりつけ医」はなくてはならないものになってきています。現代の「かかりつけ医」が求められるものをわかりやすく解説していただいています。

研修医の皆さんに医師会に入会していただきやすくするために、勤務先の病院の所属する都市等医師会、県医師会、日本医師会の年会費が無料化されました。医師会に入会するメリットのうち医師賠償責任保険と医師年金をご紹介します。職場を変わることの多い医師にとって、どこで働いていても先輩や仲間がいる医師会は必要なものだと思います。研修医になったら医師会入会をぜひ考えてください。(神崎)